

第 5 次 地 域 管 理 経 営 計 画 書

(西毛森林計画区)

計 画 期 間 自 平成27年 4 月 1 日
 至 平成32年 3 月 31 日

関 東 森 林 管 理 局

はじめに

我が国の国土面積の2割、森林面積の3割に当たる国有林野の管理経営は、森林経営の用に供するものとされた国有財産として、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、併せて、②林産物を持続的かつ計画的に供給し、③国有林野の活用によりその所在する地域の産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目標として行うものとされている。

このような中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養^{かん}に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり^{もり}等の面で高まっており、特に、地球温暖化の防止や生物多様性の保全については国有林への期待が大きくなっている。

また、国有林野と民有林野を通じた公益的機能の発揮が強く期待されているとともに、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められている。

こうしたことを踏まえ、国有林野事業については、公益的機能の発揮のための事業や民有林への指導やサポート、木材の安定供給等の事業を、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、一層計画的に実施していくため、平成25年度から、それまでの特別会計により企業的に運営する事業から一般会計において実施する事業に移行したところである。

従って、国有林野事業は、その目標の下、森林・林業や国有林野事業に対する国民の多様な要請と期待を踏まえつつ、一般会計において国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林^{もり}」とするよう、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して森林・林業の再生へ貢献するための取組を進めていくこととする。

本計画は、このような国有林野を取り巻く状況を踏まえ、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を推進するとともに、各々の課題に国有林として率先して取り組むこととし、今後5年間の西毛森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項について定めるものである。

具体的な取組の実施に当たっては、地域住民の理解と協力を得ながら、関係する国の地方部局、県、市町村等の行政機関とも一層の連携を図りつつ、この計画に基づいて適切な管理経営を行うこととする。

西毛森林計画区の国有林野位置図



吾妻森林管理署
吾妻

群馬森林管理署
利根下流

中部森林管理局



埼玉森林管理事務所
埼玉

凡 例	
	森林管理署等界
	森林計画区界
	国 有 林
	森林管理署等
	森林事務所

目 次

I	国有林野の管理経営に関する基本的な事項	1
1	国有林野の管理経営の基本方針	1
(1)	森林計画区の概況	1
(2)	国有林野の管理経営の現況及び評価	1
ア	計画区内の国有林野の現況	1
イ	主要施策に関する評価	4
①	伐採量	4
②	更新量	4
③	保護林	4
④	緑の回廊	5
⑤	レクリエーションの森	5
(3)	持続可能な森林経営の実施方向	6
ア	生物多様性の保全	6
イ	森林生態系の生産力の維持	6
ウ	森林生態系の健全性と活力の維持	6
エ	土壌及び水資源の保全と維持等	7
オ	地球的炭素循環への森林の寄与の維持	7
カ	社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進	7
キ	森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組	8
(4)	政策課題への対応	9
2	機能類型に応じた管理経営に関する事項	10
(1)	機能類型毎の管理経営の方向	10
ア	山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプ に関する事項	12
①	土砂流出・崩壊防備エリア	12
②	気象害防備エリア	12
イ	自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプ に関する事項	13
ウ	森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプ に関する事項	13
エ	水源涵養 ^{かん} タイプにおける管理経営の指針その他水源涵養 ^{かん} タイプ に関する事項	14
(2)	地域ごとの機能類型の方向	15
ア	神流川地域	15
イ	鏑川地域	16
ウ	碓氷川・烏川地域	17

3	森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項	20
(1)	低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及	20
(2)	林業事業体の育成	20
(3)	民有林と連携した施業の推進	20
(4)	森林・林業技術者等の育成等	20
(5)	林業の低コスト化等に向けた技術開発	21
(6)	その他	21
4	主要事業の実施に関する事項	22
(1)	伐採総量	22
(2)	更新総量	22
(3)	保育総量	22
(4)	林道の開設及び改良の総量	22
II	国有林野の維持及び保存に関する事項	23
1	巡視に関する事項	23
(1)	山火事防止等の森林保全管理	23
(2)	境界の保全管理	23
(3)	入林マナーの普及・啓発	23
2	森林病虫害の駆除又はそのまん延防止に関する事項	23
3	特に保護を図るべき森林に関する事項	24
(1)	保護林	24
ア	植物群落保護林	24
(2)	緑の回廊	24
4	その他必要な事項	25
(1)	野生動物等による被害に関する事項	25
(2)	希少猛禽類の生息に関する事項	25
(3)	溪畔周辺の取扱いに関する事項	25
(4)	その他	25
III	林産物の供給に関する事項	26
1	木材の安定的な取引関係の確立に関する事項	26
2	その他必要な事項	26
IV	国有林野の活用に関する事項	27
1	国有林野の活用の推進方針	27
(1)	レクリエーションの森	27
2	国有林野の活用の具体的手法	28
3	その他必要な事項	28

V	公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項……	29
1	公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な方針……	29
VI	国民の参加による森林の整備に関する事項……	30
1	国民参加の森林に関する事項……	30
(1)	ふれあいの森……	30
(2)	社会貢献の森……	30
(3)	遊々の森……	31
2	分収林に関する事項……	31
3	その他必要な事項……	31
(1)	森林環境教育の推進……	31
(2)	森林の整備・保全等への国民参加……	31
VII	その他国有林野の管理経営に関し必要な事項……	32
1	林業技術の開発、指導及び普及に関する事項……	32
(1)	林業技術の開発……	32
(2)	林業技術の指導・普及……	32
2	地域の振興に関する事項……	32
3	その他必要な事項……	33
	森林の管理経営に関する指針……	別冊

I 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

1 国有林野の管理経営の基本方針

(1) 森林計画区の概況

本計画の対象は、群馬県の南西部に位置し、利根川広域流域に含まれる西毛森林計画区*内の国有林野 29 千 ha であり、当森林計画区の森林面積の 26 % を占めている。

当計画区は、利根川の支流、かながわ 神流川、かぶらがわ 鏑川、うすいがわ 碓氷川及び鳥川からすがわの各河川の源流部であり、これら水系の上流域の国有林野は首都圏の重要な水源地帯に位置している。

林況*は、林地面積の 56 % がクリやミズナラなどを主とする天然林、44 % がスギ、カラマツを主とする人工林である。また、安中市の細野地区ほそので生産されるヒノキは「細野ヒノキ」として地域ブランドにもなっており、国有林内に約 1 ha の展示林を設定している。

特に、南部に位置する上野村には、原始的な天然ヒノキやシオジ天然林が大面積にわたって維持されており、「天丸山天然ヒノキ植物群落保護林」てんまるやま、「上野檜原ならはらのシオジ植物群落保護林」を設定してこれらの森林を保護している。また、豊かな森林景観等を背景に、北西部は「上信越高原国立公園」、西部は「妙義荒船佐久高原国立公園」に指定されている。

また、森林に対する国民のニーズに応えるべく、保健・文化・教育的な利用の場の提供を進めており、観音山地区は、都市部から比較的近距离に位置することから、登山、散策等の森林を利用したレクリエーションや保健休養の場として、四季を通じて多くの人々に利用されている。

木材の流通加工については、神流川流域の藤岡市に「県産材センター」が稼働し、原木の流通加工体制が強化されている。

さらに、上野村では古くから地元材を利用した林産業も行われているが、今年度から地産地消型の「上野村木質バイオマス発電」が新たに稼働したところであり、地域や民有林との連携にも取り組んでいる。

(2) 国有林野の管理経営の現況及び評価

ア 計画区内の国有林野の現況

当計画区の森林の現況(平成 26 年 3 月 31 日時点)は、育成林が 52 % (14 千 ha (育成単層林* 11 千 ha、育成複層林* 3 千 ha)、天然生林*が 48 % (13 千 ha) となっている。(図-1-1、図-1-2 参照)

*【西毛森林計画区】

全国では 158 の森林計画区があり、群馬県では、吾妻、利根上流、西毛、利根下流の 4 森林計画区に区画されています。

*【林況】

樹種、樹高、下層植生(森林の下層に生育している低木や草本類)の状況など、現在の森林の様子。

*【育成単層林】

森林を構成する林木の一定のまとまりを一度に全部伐採し、人為(植栽、更新補助(天然下種更新のための地表かきおこし、刈り払い等)、芽かき、下刈、除伐、間伐等の保育作業)により単一の樹冠層を構成する森林として成立させ維持する施業が行われている森林。

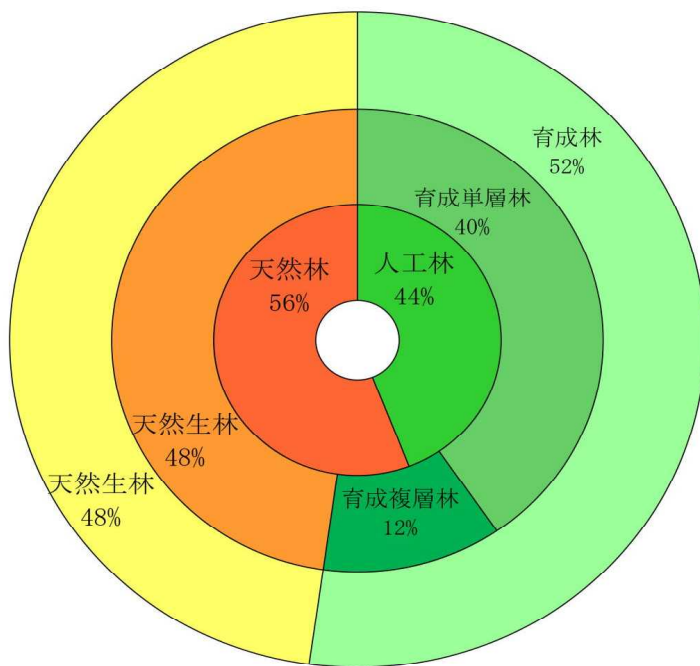


図-1-1 人工林、天然林及び林種^{*}の区分（面積比）

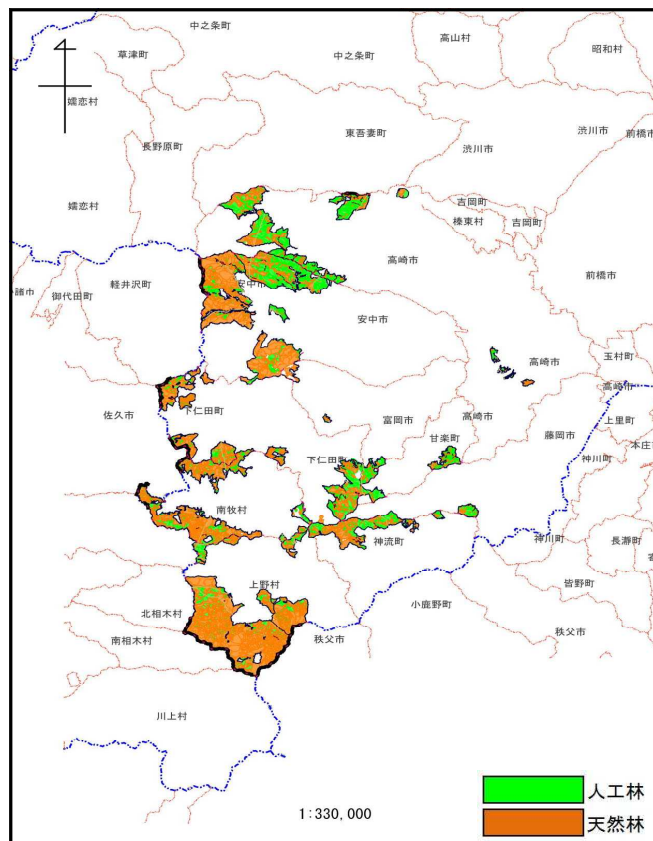


図-1-2 人工林、天然林の分布状況

※【育成複層林】

森林を構成する林木を択伐等により部分的に伐採し、人為により複数の樹冠層を構成する森林（施業との関係上一時的に単層となる森林を含む。）として成立させ維持する施業が行われている森林。

※【天然生林】

主として天然力を活用することにより森林を成立させ維持する施業が行われている森林。

※【林種】

森林の成立状態及び施業の方法により区分したもの（育成単層林、育成複層林、天然生林）。

主な樹種別の材積を見ると、針葉樹ではスギ 1,051 千 m^3 、カラマツ 735 千 m^3 、ヒノキ 380 千 m^3 、アカマツ 68 千 m^3 、その他針葉樹 158 千 m^3 、広葉樹ではナラ類 216 千 m^3 、ブナ 166 千 m^3 、カンバ類 3 千 m^3 、その他広葉樹 2,104 千 m^3 となっている。(図-2 参照)

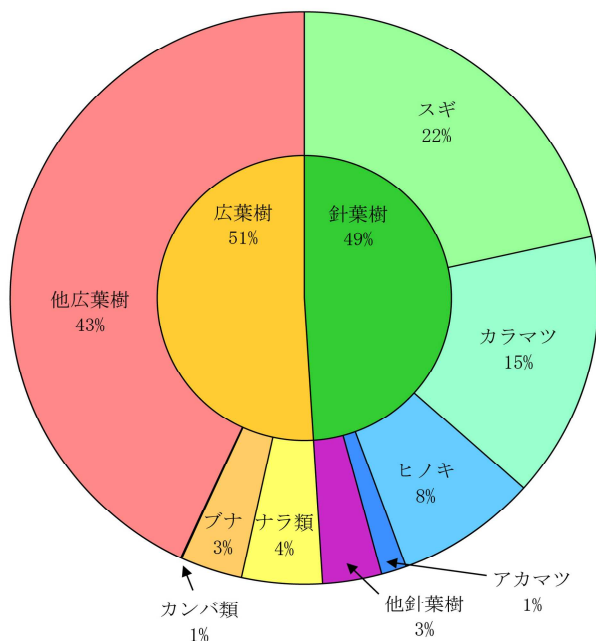


図-2 主な樹種構成 (材積比)

人工林について見ると、齢級^{*}構成 (面積別) は、1 齢級から 4 齢級の若齢林分が 6%、間伐適期である 5 齢級から 8 齢級が 29%、9 齢級以上の林分が 65%となっている。(図-3 参照)

^{*}【齢級】

林齢(樹木の年齢)を5年の幅にくくったもの。
1 齢級は 1～5 年生、
2 齢級は 6～10 年生、
10 齢級は 46～50 年生
などとなります。

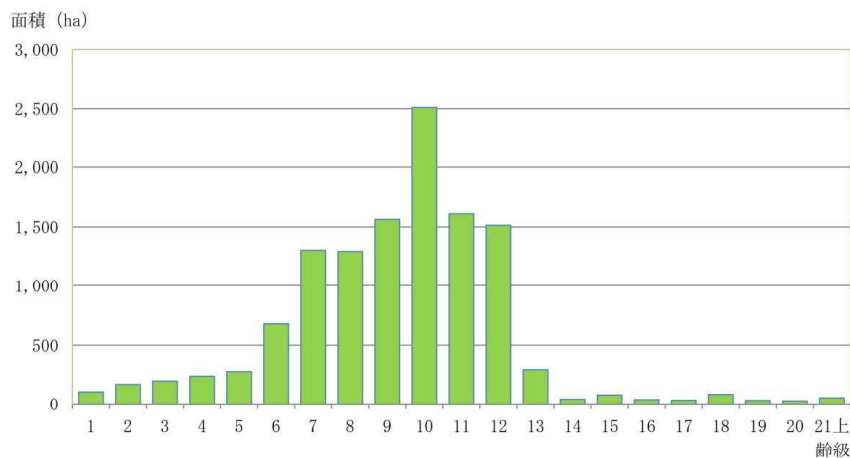


図-3 人工林の齢級構成 (面積別)

イ 主要施策に関する評価

前計画の平成 22 年度～平成 26 年度における当計画区での主な計画と実行結果は次のとおりとなっている（平成 26 年度は、実行予定を計上した）。

① 伐採量

主伐^{*}は、分収林^{*}の契約期間が満了となる箇所を中心に計画したが、契約延長（伐期の延長）等により実行の一部を見合わせたことから計画量に対して 72 % であった。

間伐^{*}は、地球温暖化防止対策に寄与すべく実施したが、生育状況等を考慮し、一部の実行を見合わせたことや、これまで間伐を実施していない小径級の林分を優先したことから、計画量に対して 66 %（材積）であった。

（単位：材積 m³）

	前 計 画		実 績	
	主 伐	間 伐	主 伐	間 伐
伐採量	69,747	233,534 (3,445ha)	49,938	154,145 (1,646ha)

注) 1 () は間伐面積である。

2 前計画の臨時伐採量^{*}は、主伐に含めた。

② 更新^{*}量

人工造林は、主伐箇所の確実な更新を図るため、順次造林を実施したが、前計画期間の後半に伐採した箇所の更新は、今期計画期間で行うこととなるため、計画に対し 44 % だった。

天然更新は、ササ生地等での更新が未了であること、伐採・搬出完了後、5 年目に更新完了を確認し、調査を行い更新完了基準^{*}を満たした箇所について更新とするため、今期計画期間において必要な調査を行うものである。

（単位：面積 ha）

	前 計 画		実 績	
	人工造林	天然更新	人工造林	天然更新
更新量	204	104	90	42

③ 保護林^{*}

当計画区に設定している保護林について、現状を把握するため、平成 25 年度に森林や動植物等の状況に関するモニタリング^{*}を実施した。

その結果、多様な環境下で成立する群落が確認されるなど、各保護林とも概ね健全な状態を維持していることが確認された。

^{*}【主伐】

更新を伴う伐採であり、一定のまとまりの林木を一度に全部伐採する皆伐、天然更新に必要な種子を供給する親木を残し、50 % 以内の伐採率で伐採する漸伐、30 % 以内（人工林は 40 % 以内）で繰り返し抜き伐りする択伐、複層林造成のために行う複層伐などがあります。

^{*}【分収林】

P31 参照。

^{*}【間伐】

森林の育成過程で密度が高い林の木を間引き、残した木の成長や形質の向上、森林の機能の維持増進を図る伐採のことです。

^{*}【臨時伐採量】

国有林野施業実施計画において箇所ごとに伐採指定を行い、指定された箇所での伐採を原則とするものの、これのみによれば、非常災害や緊急の需要、円滑な事業実行に支障が生じるおそれがあることから、例外的に伐採指定箇所以外でも伐採できる数量で見込み数量を計上しています。

^{*}【更新】

主伐に伴って生じるものであり、植栽による人工造林、天然力を活用し種や根株からの芽生えにより森林を育成する天然更新があります。

^{*}【更新完了基準】

搬出完了後 5 年目に樹高 30 cm 以上の高木性の天然木が 5,000 本/ha 以上、林地に均等に成立した時を目安とします。

^{*}【保護林】

P24 参照。

^{*}【モニタリング】

あるものの実態・状態を継続的に観測・観察することです。

(単位：面積 ha)

保護林の種類	前計画期首		前計画期末	
	箇所数	面積	箇所数	面積
植物群落保護林	2	410	2	410
計	2	410	2	410

④ 緑の回廊

該当なし。

⑤ レクリエーションの森*

レクリエーションの森は、国民の保健・文化的利用上特に重要な区域として、①自然休養林、②自然観察教育林、③風景林、④森林スポーツ林、⑤野外スポーツ地域、⑥風致探勝林、⑦その他（レクリエーションの森施設）に種類分けし、広く国民に提供している森林である。

これらのうち、当計画区では、やすらぎの場としての自然休養林、優れた自然環境を活用した自然観察教育林や風景林とともに、都市近郊のスポーツや保健休養のエリアとして貢献している野外スポーツ地域など、四季を通じて多くの人々に利用されている。

なお、観光地の利用者増加等により駐車場敷として用途廃止した部分はあるが極小面積のため、数値上の変更はない。

(単位：面積 ha)

種類	前計画期首		前計画期末	
	箇所数	面積	箇所数	面積
自然休養林	1	1,009	1	1,009
自然観察教育林	1	91	1	91
風景林	6	698	6	698
野外スポーツ地域	1	77	1	77
風致探勝林	1	97	1	97
その他レクの森施設敷	6	2	6	2
計	16	1,974	16	1,974

*【レクリエーションの森】

優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林を「レクリエーションの森」に設定し、国民の皆さんに提供しています。

(3) 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林」の実現を図り、現世代や将来世代へ森林からの恩恵を伝えるため、住民の方々の意見を聴き、機能類型区分^{*}に応じた森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいくとともに、国有林野事業の組織・技術力・資源を活用し、民有林への指導やサポートを通じて森林・林業の再生に貢献していくこととする。

また、持続可能な森林経営については、日本はモンテリオール・プロセス^{*}に属しており、この中で国全体として客観的に評価するため7基準（54指標）が示されている。当計画区内の国有林野について、この基準を参考に取り組んでいる対策及び森林の取扱い方針は次のとおりである。

ア 生物多様性^{*}の保全

（取組内容）

地域の特性に応じた多様な森林生態系^{*}を保全していくため、間伐の推進等により森林の健全性を確保するとともに、希少な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護するほか、施業を行う場合でも適切な配慮を行う。

また、人工林の針広混交林化、広葉樹林化、野生動植物の生息・生育地や溪流環境の保全・復元など生物多様性を維持・向上させるため、赤谷プロジェクトの取組（利根上流森林計画区（群馬県）の地域管理経営計画別冊「赤谷の森管理経営計画書」を参考）を先進事例として取り組む。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・人工林の群状・帯状択伐による針広混交林化
- ・皆伐箇所の分散と伐期の長期化との組み合わせによる森林のモザイク的配置
- ・保護林の適切な維持・管理
- ・希少猛禽類^{*}生息地での森林施業への配慮、モニタリングの実施

イ 森林生態系の生産力の維持

（取組内容）

森林としての成長力を維持し健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な森林整備と主伐後の適確な更新を行うことにより、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・利用期に達した人工林の間伐及び主伐を積極的に推進
- ・主伐後の確実な再造林又は天然力を活用した更新
- ・計画的な森林整備
- ・森林の管理、効率的な森林整備を可能とする路網^{*}の整備

ウ 森林生態系の健全性と活力の維持

（取組内容）

外的要因による森林の劣化を防ぐため、野生鳥獣や山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。

^{*}【機能類型区分】
P10 参照。

^{*}【モンテリオール・プロセス】
欧州以外の温帯林を対象に森林経営の持続可能性を把握・分析・評価するための「基準・指標」の策定・適用に向けた国際的な取組です。

^{*}【生物多様性】
生物多様性条約によれば「生物多様性とは、すべての分野、特に陸上生態系、海洋及び水生生態系並びにこれが複合した生態系における生物の変異性をいうものであり、種内の多様性（遺伝的多様性）、種間の多様性（種多様性）、及び生態系の多様性（生態系多様性）を含むものである」と記されています。

^{*}【森林生態系】
森林群落の生物の生命活動と、それを取り巻く無機的環境との間の物質とエネルギーのやり取り（光合成など）、また環境資源をめぐる生物間相互の競争や繁殖のための共生関係など、森林群落構成要素の間に見られる相互作用の体系的な現象の総称のことです。

^{*}【猛禽類】
肉食性のタカ目、フクロウ目の野鳥。猛禽類は生態系食物連鎖の頂点に位置する肉食鳥類であり、もともと個体数が少ないが、開発や環境汚染などで繁殖率が低下しています。食物連鎖の頂点に位置する猛禽類の生息環境を保全することは、森林全体の生物多様性を保全することにつながります。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・ニホンジカやツキノワグマによる食害、剥皮被害防止対策
- ・山火事を防止するための巡視

エ 土壌及び水資源の保全と維持等

(取組内容)

侵食等から森林を守り、森林が育む水源の涵養^{かん}のため、山地災害により被害を受けた森林の整備・復旧や公益的機能の維持のために必要な森林の保全を行うとともに、森林施業においても裸地状態となる期間の縮小、尾根筋や沢沿いでの森林の存置を行う。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・伐採跡地の適確な更新による裸地状態の減少
- ・溪畔沿い、急斜地等における皆伐の回避
- ・下層植生の発達を促すための間伐等の実施
- ・治山事業の計画的な実施及び災害時における迅速な復旧対策の実施

オ 地球的炭素循環への森林の寄与の維持

(取組内容)

二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫となる森林を確保するため、森林の蓄積を維持・向上させるとともに森林資源の循環利用を推進する観点から齢級構成の平準化を図る。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・主伐と再生林による森林資源の若返りを推進
- ・造林、間伐等の森林整備の推進
- ・木材利用の推進

カ 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進

(取組内容)

国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮とともに、森林浴や森林ボランティア活動、環境教育等、森林と人とのふれあいの場の提供や森林施業に関する技術開発等に取り組む。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・機能類型区分に応じた適切な森林の管理経営の実施
- ・レクリエーション^{レクリエーション}の森の提供と利用促進
- ・国民参加の森林づくり^{もり}の推進
- ・森林環境・教育の推進

※【路網】

P22の「林道」及び「林業専用道」を参照。

※【水源涵養機能^{かん}】

森林の樹木及び地表植生によって形成された落葉、落枝、林地土壌の作用によって、山地の降雨を地下に浸透させ、降雨直後の地表流出量を減少させる機能です。

豪雨時、融雪時等の増水時に流量ピークを下げる洪水調節機能と、渇水時の流量を平常の状態に近づけさせる渇水緩和機能とによって、洪水の防止及び水資源の確保に寄与します。

※【国民参加の森林づくり^{もり}】

P30「国民参加の森林に関する事項」で具体的に説明。

キ 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組

(取組内容)

上記ア～カに記述した内容を着実に実行し、「国民の森林^{もり}」として開かれた管理経営を行うため、国有林野に関連する法制度に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。

関連する主な対策は次のとおり。

- ・ 地域管理経営計画等の策定
- ・ 「国有林モニター」^{*}の設置や計画策定に当たって地域住民等から意見聴取
- ・ 関東森林管理局の HP ^{*}等の充実による情報発信

^{*}【国有林モニター】

国有林野に関心のある国民の皆さんへ幅広く情報を提供するとともに、アンケートや意見交換を通じていただいたご意見・ご要望等を管理経営に活かすための制度です。モニターは公募により選定。

^{*}【ホームページアドレス】

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>

(4) 政策課題への対応

災害からの流域保全や地球温暖化防止、貴重な森林の保全、木材の計画的な供給、民有林との連携等、地域から求められる国有林野への期待に応じていくため、次のとおり当計画区内での主な個別政策課題へ対応していくことを目標とする。

視 点	主 な 取 組 目 標
公益重視の管理経営の一層の推進	<p>【地域の安全・安心を確保する治山対策の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人家等保全対象に近接する山地災害の危険がある箇所について、溪間工及び山腹工、計 56 箇所の治山事業を計画。 <p>【生物多様性の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「上野檜原のシオジ植物群落保護林」等の保護林については、適切な保護を図るとともに、モニタリングを実施。また、「オオタカモデル森林」を細野地区に設定。生息調査やモニタリングを実施し希少猛禽類の保護と森林施業の両立を推進。 <p>【森林吸収源対策の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林吸収源対策として、間伐等の適正な森林の整備や木材利用等を推進。 ・将来にわたり森林の二酸化炭素吸収量を確保する観点から、主伐及び確実な再生林による齢級構成の平準化を推進。
地域の森林・林業再生への貢献	<p>【木材の安定供給】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スギやヒノキを中心とした木材を安定的に供給するために、効果的かつ効率的な伐採や路網整備を実施し、低コスト化に向けた取組を推進するとともに、神流川地区において稼働を予定している上野村バイオマス発電事業への安定的な資材の供給を上野村と連携を図りつつ推進。 <p>【民国連携した森林整備の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民有林と国有林が連携して効率的な路網整備や間伐等の森林整備に取り組むため、森林共同施業団地の設定や公益的機能維持増進協定を活用し、民・国連携した森林施業を推進。
国民の森林としての管理経営	<p>【国民参加の森林づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいの森」として設定した「さぬ山創造の森」等において、引き続き、必要な助言や技術指導等の支援を実施し、国民が自主的に行う森林整備活動を推進。 <p>【森林とのふれあい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レクリエーションの森」として設定した「妙義自然休養林」等については、広報活動等を通し周知するなど、森林レクリエーションの場として利用を促進。

2 機能類型に応じた管理経営に関する事項

(1) 機能類型毎の管理経営の方向

当計画区の特徴を活かし、森林に対する国民の要請が、国土保全や水源の涵養^{かん}に加え、地球温暖化防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等多様化していることを踏まえ、林産物の供給や地域振興への寄与にも配慮しつつ、開かれた「国民の森林^{もり}」の実現に向けた取組を推進していくため、国有林の地域別の森林計画との整合に留意し、国有林野を国土の保全や気象害^{*}の防備を重視する「山地災害防止タイプ」、豊かな生態系の維持・保存を重視する「自然維持タイプ」、保健・文化・教育的な利用を重視する「森林空間利用タイプ^{かん}」及び水源の涵養^{かん}を重視する「水源涵養タイプ」の4つに区分し、次のような管理経営を行うこととする。この場合、国有林の地域別の森林計画における公益的機能別施業森林と本計画で定める機能類型区分との関係については、表-1のとおりである。

なお、機能類型に応じた機能の発揮と整合性を図りつつ、針葉樹林、広葉樹林及び針広混交林の林相の維持・改良等に必要の施業の結果、得られる木材を有効利用し、政策的・計画的に供給することとする。特に、再生可能エネルギーとしてのバイオマス利用等、地域のニーズに応じて木材を供給することとする。

また、公益的機能発揮に支障を及ぼさない範囲で齢級構成の平準化を図る主伐と再造林を計画的に行うこととする。

森林性猛禽類の生息には、餌動物の生息環境を含め、採餌・営巣環境が大きく影響することから、全ての機能類型において、関係者の協力を得るなどにより、クマタカ等希少猛禽類の生息地等の具体的な情報を収集するとともに、有識者等との情報交換等を緊密に行い、森林性猛禽類の生息環境の保全に取り組むこととする。

特に、希少野生動植物の生息・生育が確認されている地域で森林施業等を予定する場合は、関東森林管理局に設置している「希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会」において、施業等を行う場合の留意点等について専門家の立場からの意見を聴取し、その意見を踏まえて対応することとする。

*【気象害】

風、潮、霧など気象要素によって発生する被害です。

表－1 機能類型と公益的機能別施業森林の関係について

(単位：面積 ha)

地域管理経営計画における機能類型区分		国有林の地域別の森林計画における公益的機能別施業森林	当計画区の該当する森林の面積
山地災害防止タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	<ul style="list-style-type: none"> 山地災害防止機能／土壤保全機能維持増進森林 水源涵養機能維持増進森林 	2,626
	気象害防備エリア	<ul style="list-style-type: none"> 山地災害防止機能／土壤保全機能維持増進森林 快適環境形成機能維持増進森林 水源涵養機能維持増進森林（立地条件（海岸）により除外する場合もある） 	—
自然維持タイプ		<ul style="list-style-type: none"> 保健文化機能維持増進森林 水源涵養機能維持増進森林 山地災害防止機能／土壤保全機能維持増進森林（立地条件により区分する場合もある） 	1,495
森林空間利用タイプ		<ul style="list-style-type: none"> 保健文化機能維持増進森林 水源涵養機能維持増進森林 山地災害防止機能／土壤保全機能維持増進森林（立地条件により区分する場合もある） 	2,246
水源涵養タイプ		<ul style="list-style-type: none"> 水源涵養機能維持増進森林（分収林については、契約に基づく取扱いを行う） 	22,645
機能類型区分設定外			—
合 計			29,012

本表に用いた略称

略 称	正 式 名 称
水源涵養機能維持増進森林	水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
山地災害防止機能／土壤保全機能維持増進森林	土地に関する災害防止及び土壤の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
保健文化機能維持増進森林	保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
快適環境形成機能維持増進森林	快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

ア 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプに関する事項

山地災害防止タイプにおいては、山地災害による人命・施設の被害の防備、気象害による環境の悪化の防備機能の維持増進を図るため、適切な間伐の実施や長伐期施業、育成複層林へ導くための施業等の推進に努め、必要に応じて施設の整備を図ることとし、次のとおり、土砂流出・崩壊防備エリア及び気象害防備エリアに区分して取り扱うものとする。

なお、本計画区における山地災害防止タイプの面積は下表のとおりである。

管理経営の詳細は、別冊「森林の管理経営の指針」に示すとおりである。

① 土砂流出・崩壊防備エリア

土砂流出・崩壊防備エリアについては、保全対象や当該森林の現況等を踏まえ、根系や下層植生の発達を促進するために適度な陽光が林内に入るよう密度管理を行うとともに、必要に応じて土砂の流出・崩壊を防止する治山施設等が整備されている森林等に誘導し、又はこれを維持するために必要な管理経営を行うものとする。

② 気象害防備エリア

気象害防備エリアについては、風害、飛砂、潮害等の気象害を防備するため、樹高が高く下枝が密に着生しているなど遮蔽能力が高く、諸害に対する抵抗力の高い森林等に誘導し、又はこれを維持するために必要な管理経営を行うものであるが、当計画区に該当する国有林野はない。

山地災害防止タイプの面積

(単位：ha)

区 分	山地災害防止タイプ	うち、土砂流出・崩壊防備エリア	うち、気象害防備エリア
面 積	2,626	2,626	—

イ 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプに関する事項

自然維持タイプについては、自然の推移に委ねることを原則として、保護を図るべき森林生態系を構成する野生動植物の生息・生育に資するために必要な管理経営を行うものとする。

また、希少な野生動植物の生息・生育に資するために必要な森林、遺伝資源の保存に必要な森林等については、保護林に設定する。

なお、本計画区における自然維持タイプの面積は下表のとおりである。

管理経営の詳細は、別冊「森林の管理経営の指針」に示すとおりである。

自然維持タイプの面積 (単位：ha)

区 分	自然維持タイプ	うち、保護林
面 積	1,495	410

ウ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプに関する事項

森林空間利用タイプについては、保健、文化、教育等様々な利用の形態に応じた管理経営を行うものとし、具体的には、景観の向上やレクリエーションの利用を考慮した森林の整備を行い、必要に応じて遊歩道等の施設の整備を進める。

また、国民の保健・文化的利用に供するための施設又は森林の整備を積極的に行うことが適当と認められる国有林野については、「レクリエーションの森」として選定することとする。

なお、本計画区における森林空間利用タイプの面積は下表のとおりである。

管理経営の詳細は、別冊「森林の管理経営の指針」に示すとおりである。

森林空間利用タイプの面積 (単位：ha)

区 分	森林空間利用タイプ	うち、レクリエーションの森
面 積	2,246	1,974

エ 水源涵養^{かん}タイプにおける管理経営の指針^{かん}その他水源涵養^{かん}タイプに関する事項

水源涵養^{かん}タイプにおいては、流域の特性や当該森林の現況等を踏まえ、根系や下層植生の発達が良好な森林、多様な樹冠^{かん}層で構成される森林等に誘導し、又はこれを維持するために必要な管理経営を行うものとし、これらを維持できる範囲内で森林資源の有効利用に配慮するものとする。

なお、本計画区における水源涵養^{かん}タイプの面積は下表のとおりである。

管理経営の詳細は、別冊「森林の管理経営の指針」に示すとおりである。

水源涵養^{かん}タイプの面積 (単位：ha)

区 分	水源涵養 ^{かん} タイプ
面 積	22,645

注)分収林については、契約に基づき伐採する(ただし、保安林等の法令制限がある場合は、その制限に従う)。

※【樹冠】

樹冠とは、樹木の上部、枝や葉の集まった部分。一般に、針葉樹は円錐形、広葉樹は球形やほうき形になりますが、周囲の影響によって変わります。

(2) 地域ごとの機能類型の方向

当計画区は、神流川地域、鑄川地域、碓氷川・烏川地域に大別され、それぞれ重点的に行うべき管理経営は次のとおりである。(図-4 参照)

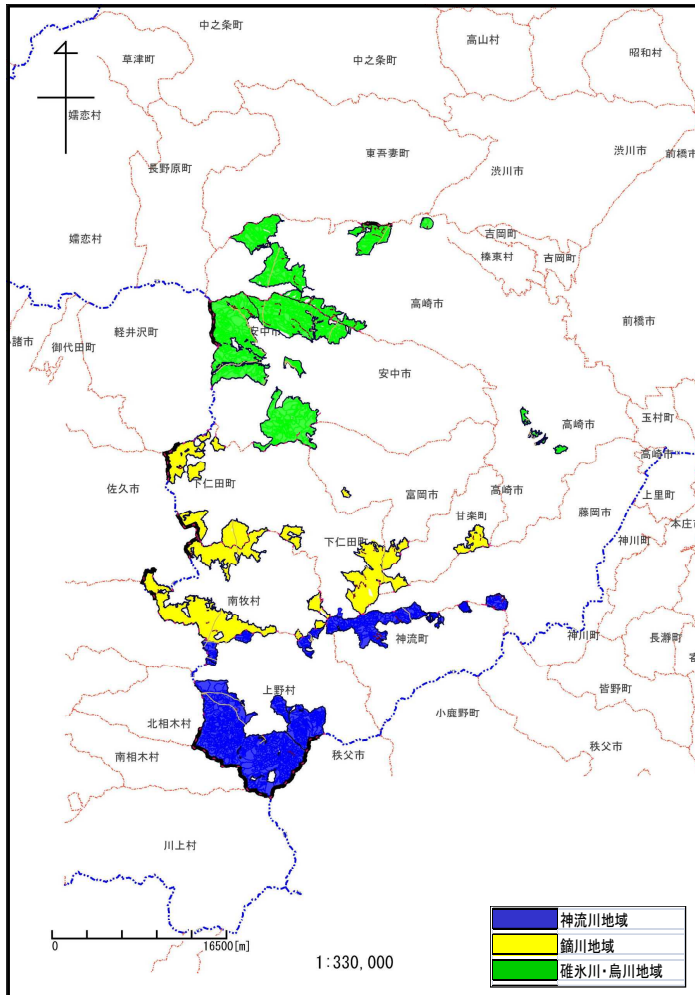


図-4

ア かんながわ 神流川地域 (20, 34~41, 43, 44, 46, 49, 59~86林班)

当地域は、南は埼玉県、西は長野県との県境と接し、源流部は、イヌブナ、カエデ等の広葉樹林となっている。

神流川の支流である北沢には、原始的なシオジを多く含む天然林があり、「上野檜原のシオジ」として天然記念物に指定されているほか、この区域を含む周辺一帯を植物群落保護林として設定している。また、天丸山西面の沢筋にはシオジやサワグルミ、尾根筋には天然ヒノキの群落が見られ植物群落保護林として設定しており、これら2箇所の天然林は、群馬県の自然環境保全地域特別地区にも指定されていることを踏まえ、自然維持タイプに区分し、自然環境の維持及び生物多様性の保全を重視した管理経営を行うこととする。

当地域の南端の神流川源流部に位置する御巢鷹山^{おすたかやま}周辺の森林については、昭和 60 年に航空機事故が発生し、慰霊登山等が行われていることを踏まえ、森林空間利用タイプに区分し、森林景観の維持向上等を重視した管理経営を行うこととする。

また、当地域の大部分が水源かん養保安林に指定されており、首都圏の水源^{かん}地として重要なことから、上記以外は水源涵養^{かん}タイプに区分し、水源涵養機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

イ ^{かぶらがわ} 鑓川地域（1～19、21～33、42、45、47、48、50～58林班）

当地域は、計画区の西部に位置し西端は長野県境に接している。当地域の南側を南牧・稲含地区、北側を荒船地区に区分し、それぞれの管理経営は、次のとおり行うこととする。

① ^{なんもく いなふくみ} 南牧・稲含地区（1、12～19、21～33、42、45、47、48、50～58林班）

当地区の源流部は、ミズナラ等の広葉樹林を主体とする天然林で、大半が水源かん養保安林に指定されている。

中流部は、県内でも民有林・国有林ともに人工林率が高い地区であり、生産された木材は「かぶら材」として地域ブランド化が図られるなど、スギ、ヒノキを中心とした優良な人工林地帯であると同時に下流域の生活用水等の貴重な水源^{かん}地として期待されている。

これらを踏まえ、水源涵養^{かん}タイプに区分し、継続的な木材生産を図りつつ水源涵養機能^{かん}の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

② ^{あらふね} 荒船地区（2～11林班）

当地区は、山頂部が平坦に侵食された特異な山容を呈する荒船山（1,423m）の北部～東部の源流部に位置している。

上部は、急峻で険しく起伏が大きい地形であり、一部には地滑りも見られることから、土砂流出防備保安林に指定されている。このため、山地災害防止タイプに区分し、山地災害防止機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

また、長野県境で優れた景観を有している森林は、レクリエーションの森として「荒船山」、「香坂矢川峠^{こうさかやがわとうげ}」「大山^{おおやま}」の各風景林を選定しており、森林空間利用タイプに区分し、森林景観の維持向上及び保健文化機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

ウ ^{うすいがわ からすがわ} 碓氷川・烏川地域 (87～90、101～285林班)

当地域は、計画区の中央東部、北西から北部に位置し、西端は長野県境に、北端は吾妻森林計画区に接している。当地域の東部を観音山地区、西部を妙義地区、北西部を霧積地区、北部を細野、倉渕・榛名地区に細分し、それぞれの管理経営は、次のとおり行うこととする。

① ^{かんのんやま} 観音山地区 (87～90林班)

当地区は、標高は 100 ～ 210m の観音山丘陵内にあり、高崎市街地の近郊林として地域住民の保健休養の場、散策の場として親しまれているため、レクリエーションの森（野外スポーツ地域）を設定している。また、都市計画法による風致地区にも指定されていることから、風致の維持が特に期待されている。このため、森林空間利用タイプに区分し、森林景観の維持向上及び保健文化機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

② ^{みょうぎ} 妙義地区 (101～117、156、157林班)

当地区は、上毛三山の 1 つに数えられ陰しく切り立った岩峰で有名な妙義山（主峰：金洞山 1,073m）の周辺に位置する。

妙義山を構成する奇岩怪石は、屏風岩、石門、ローソク岩、大砲岩、筆頭岩等の名前が付けられ親しまれている。これら特異で優れた自然景観を有していることから、妙義荒船佐久高原国定公園に指定されている。

当地区は、都市部から比較的近距离にあることから、自然景観、四季を通じた野鳥との出会い、登山など森林を利用した保健休養の場として優れているため、レクリエーションの森（妙義自然休養林・小根山森林公園自然観察教育林）として設定しており多くの人々に利用されている。

これらを踏まえ、森林空間利用タイプに区分し、森林景観の維持向上及び保健文化機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

また、碓氷川支流の中木川上流部は水源涵養機能を重視した水源涵養タイプに、土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林の区域については、山地災害防止機能の発揮を重視した山地災害防止タイプに区分し、各機能を重視した管理経営を行うこととする。

③ ^{きりづみ}霧積地区（118～155林班）

当地区は、長野県軽井沢町に接する碓氷川の源流部に位置し、ブナ、ケヤキ等の天然林が広がる国道 18 号（旧道）沿線については、隣接する旧信越本線に架けられた煉瓦造りのアーチ式鉄道橋（通称めがね橋）をはじめ、新緑や紅葉、緑のトンネルなどが一体となり、優れた自然景観を有していることから、上信越高原国立公園に指定されている。この優れた景観を後世に引き継ぐため、森林空間利用タイプに区分し、森林景観の維持向上を重視した管理経営を行うこととする。

また、長野県軽井沢町境の稜線は長野県側が緩傾斜なのに比べて群馬県側が急傾斜という特徴があり、県境の尾根筋に生育している大径のミズナラ、クリ等天然林及び特異な地形を維持するため、自然維持タイプに区分し、自然環境の維持等に係る機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

当地区は総じて急峻な地形であり、ミズナラ、クリ、ケヤキ等を主体とした天然林が大部分を占めるが、比較的緩傾斜地にはスギ、ヒノキ、カラマツ人工林が造成されている。これらの森林は、霧積川、碓氷川の源流部にあり、下流域の水源地として重要である。このため、重要な水源地として期待されている森林については、水源涵養^{かん}タイプに区分し、水源涵養^{かん}機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

さらに、国道 18 号（旧道）周辺や霧積温泉の周囲の一部には、崩壊しやすい地質となっている箇所があることから、これらの地区は、山地災害防止タイプに区分し、山地災害防止機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

④ ^{ほその}細野、^{くらぶち}倉渕・^{はるな}榛名地区（158～285林班）

当地区は、増田川及び烏川の上流部に位置し、「細野ヒノキ」など地域ブランド化が図られており、木材生産活動が盛んであるとともに、下流域の生活用水等の重要な水源地帯として期待も高い地区でもあることから、水源涵養^{かん}タイプに区分し、水源涵養^{かん}機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

特に、細野地区（158～189林班）の国有林 2,079ha では、人工林が約 7 割を占める一方、森林生態系の頂点をなし生物多様性のシンボルであるオオタカをはじめ、ハイタカやハチクマなどの猛禽類が生息しており、これら希少猛禽類の保護と森林施業との調整に関する調査研究を進めてきた。

こうした取り組みを踏まえ、人工林地帯における生物多様性の保全と木材生産の両立が実現可能な森林状態に誘導するための森林施業を展開するため、「オオタカモデル森林」を設定し、オオタカをアンブレラ種・シンボル種と位置付け、長期的視点に立って、木材の持続的な生産を図りつつ、オオタカの生息環境の維持・向上を図るための先駆的な施業を行うこととする。「オオタカモデル森林」においては、従来の施業体系を再編し、エリア全体としての水源涵養機能^{かん}の維持・向上を図りつつ、オオタカの狩場環境や営巣環境、餌となる鳥類や小動物の生息環境の改善、効率的な木材生産を体系的に進めるために特別な森林施業を実施するものであり、具体的な森林の取扱いについては、別冊「オオタカモデル森林管理経営計画書」に示すとおりとする。

また、上毛三山の1つである榛名山の象徴として親しまれている榛名富士（1,391m）周辺の国有林野は、カラマツ人工林もあるが周辺のみズナラを主体とした天然林と一体となった森林景観を構成しており、「榛名湖風致探勝林」としてレクリエーションの森に選定し多くの人々に利用されている。

かつての噴火口に水をたたえた榛名湖と榛名富士が生み出す優れた景観を有していることを踏まえ、森林空間利用タイプに区分し、森林景観の維持向上及び保健文化機能の発揮を重視した管理経営を行うこととする。

3 森林の流域管理システム^{*}の下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

民有林関係者等と連携して推進する森林の流域管理システムの下、流域森林・林業活性化協議会等の場を通じ、県、市町村等と密接な連携を図りながら、我が国の森林・林業の再生に貢献していくため、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、組織・技術力・資源を活用し、民有林の経営に対する支援等に積極的に取り組むこととする。

具体的には、県、市町村等との連絡調整を図り、流域の課題や地域ニーズの的確な把握に努めつつ、以下に掲げる事項について重点的に取り組むこととする。

(1) 低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及

県、林業事業者等と連携し、国有林野をフィールドとして、低コスト路網等の先駆的な取組についての現地検討会等を開催し、民有林における普及・定着に努める。

(2) 林業事業者の育成

民有林行政との連携を図りつつ、事業の計画的な発注や立木の販売等を通じて、林業事業者の育成に努める。

また、「緑の雇用」事業において実施する研修等のフィールドとして、国有林野を積極的に提供する。

(3) 民有林と連携した施業の推進

利用期を迎えつつある資源を活用し、持続可能な森林経営の実現に向け、民有林と国有林が連携して施業の集約化や計画的な路網整備等を推進していくことが重要であるため、民有林と連携することで施業の効率化や低コスト化等が図られる区域については、森林共同施業団地の設定に向け取り組む。

また、関係機関と連携し、「オオタカモデル森林」において、生息環境の保全と木材生産の両立などの希少猛禽類の生息に配慮した施業に取り組む。

平成26年3月に群馬県と確認書を締結し共有化した国有林と民有林の森林情報（GIS データ）を基に、路網計画、治山事業、獣害対策、技術開発等への有効活用に取り組む。

(4) 森林・林業技術者等の育成等

事業の発注や国有林野の多種多様なフィールドの提供等を通じて、民有林の人材育成を支援する。

^{*}【流域管理システム】

日本の森林は流域を単位として158に区分されており、それぞれの流域において民有林、国有林が連携して、森林の整備や林業・木材産業の振興を図ることを目的として「森林の流域管理システム」が進められています。

(5) 林業の低コスト化等に向けた技術開発

関係機関と連携し、コンテナ苗^{*}や大苗の植栽による下刈期間及びシカ等の食害に遭う期間の短縮、筋刈りや坪刈りなど下刈りの強度の違いによる食害防止効果等、鳥獣被害対策と併せて林業の低コスト化に向けた技術開発に取り組む。

^{*}【コンテナ苗】

造林事業における投資の低コスト化を目的に、専用のコンテナ（マルチキャビティコンテナ）を利用し育苗した苗です。

(6) その他

システム販売^{*}による間伐材等の計画的な供給及び未利用間伐材等の積極的な活用のため民国連携システム販売を推進する。

^{*}【システム販売】

地域材の需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む製材工場や合板工場との協定に基づいて国有林材を安定的に販売する仕組みです。

県や市町村等と連携したニホンジカ等の野生鳥獣被害対策、上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等を推進することとする。

4 主要事業の実施に関する事項

本計画期間における伐採、更新、林道等の計画量は次のとおりである。

事業の実施に当たっては、労働災害の防止に努めるとともに、地域の実情等を踏まえ民間事業者等に委託していくこととしており、計画的な事業の実施等により林業事業者の育成・強化に資するよう努めることとする。

また、効率的な事業実施に努めるとともに、国土保全、自然環境の保全等に十分配慮することとする。

(1) 伐採総量^{*} (単位：m³)

区 分	主 伐	間 伐	計
計	58,029	281,075 (3,985)	357,204 《18,100》

- 注) 1 ()は、間伐面積(ha)。
2 計欄の《 》は、臨時伐採量で内書。
3 計は、主伐、間伐及び臨時伐採量の合計。

(2) 更新総量^{*} (単位：ha)

区 分	人工造林	天然更新	計
計	161	135	296

(3) 保育総量^{*} (単位：ha)

区 分	下 刈	つる切	除 伐
計	668	140	290

(4) 林道等の開設及び改良の総量

区 分	開 設		拡 張 (改良)	
	路線数	延長量(m)	路線数	延長量(m)
林 道 [*]	9	15,831	32	860
うち林業専用道 [*]	9	15,831	—	—

^{*}【伐採総量】

国有林の地域別の森林計画に定める10年分の伐採立木材積と調和が保たれるように、5年分について計上します。

^{*}【更新総量】

更新とは主伐により生じる森林造成の基本となるものであり、人工造林と天然更新に区分されません。

更新総量については、前計画における伐採跡地等のほか5年分において計画する主伐箇所へ更新期間を勘案した合計を計上します。

^{*}【保育総量】

森林の現況、更新量に基づき、下刈、つる切、除伐等の保育の種類別に施業基準を当てはめ計上します。

^{*}【林道】

一般車両など、不特定多数の者が利用し、森林整備や木材生産を進める上で幹線となる道路。

^{*}【林業専用道】

森林施業のために特定の者が利用し、林道を補完するための道路。

II 国有林野の維持及び保存に関する事項

1 巡視に関する事項

(1) 山火事防止等の森林保全管理

当計画区は、早春から新緑季及び秋季等に林内が乾燥し山火事発生危険が増大する。

このため、国民共通の財産である豊かな自然環境を保全管理すべく、国有林野保護監視員、県、市町村、地元消防団及び地元住民等と連携を密にして、森林の巡視を行い、山火事の防止、希少な動植物の保護等、適切な森林の保全管理に努めることとする。

(2) 境界の保全管理

当計画区の国有林野の境界は、丘陵状の里山の一部を含め、全体的には中山間部から奥地山岳地帯にかけて位置している。

また、複雑で急峻な地形が多く、雪崩や融雪災害等により、境界標識が亡失するおそれが高いことから、今後とも巡検^{*}等に努めるなど境界の適切な保全管理を実施することとする。

(3) 入林マナーの普及・啓発

近年の登山・トレッキングブームや森林との積極的なふれあい志向を背景に、入林者が増加傾向にある。これに伴い、ゴミの投げ捨てや踏み荒らし等が問題となっている。また、近年、廃棄物の不法投棄が増大しているため、これらの早期発見や未然防止が必要である。

このため、国有林野保護監視員や地元自治体、観光協会、ボランティア団体等との連携を強化し、森林に入る場合のマナーの普及・啓発に努めることとする。

2 森林病害虫^{*}の駆除又はそのまん延防止に関する事項

松くい虫被害が見られることから、民有林関係者と連携を図りつつ、防虫対策として薬剤樹幹注入等を行いまん延防止に努めることとする。

また、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害については、国有林における被害は見られないものの、民有林関係者との情報共有を行い早期発見に努めるとともに、被害が確認された場合は民有林と連携した防除対策を講ずることとする。

^{*}【巡検】

国有林野と隣接する民有地との境界に設置された標識等の現況について確認する行為です。

^{*}【森林病害虫】

樹木又は林業種苗に損害を与える線虫類を運ぶ松くい虫、樹木に付着してその生育を害するせん孔虫類等とされています。

3 特に保護を図るべき森林に関する事項

(1) 保護林*

保護林は、野生動植物の生息又は生育の状況、地域の要請等を勘案して、原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、施業及び管理技術の発展等に特に資することを目的として管理を行うことが適当と認められる国有林野を選定することとしており、当計画区では2箇所、410haを保護林に設定している。

保護林については、評価基準を設け統一した調査項目を設定し、モニタリングを実施しているところである。今後は、モニタリング結果の蓄積及び分析を行い、その結果によっては、自然の推移に委ねるだけでなく、必要に応じて人為を加え、保護林本来の設定目的に沿った森林として維持・管理することとする。なお、人為を加える場合は、学識経験者や専門家の意見を聴いて行うこととする。

保護林の取扱いについては、前述の自然維持タイプによるほか、保護林の種類別に次によることを基本とする。なお、学術研究その他公益上の事由により必要と認められる行為、その他法令等の規定に基づいて行うべき行為は、これにかかわらず行うことができるものとする。

また、立入を可能とする区域においては、入林者の影響等による植生の荒廃の防止等の措置が必要な箇所について、標識の設置、歩道の整備等に努めるとともに、学習の場等として国民が利用できるよう努めるものとする。

種 類	箇 所 数	面 積 (ha)
植物群落保護林	2	410
計	2	410

ア 植物群落保護林

我が国又は地域の自然を代表するものとして保護を必要とする植物群落及び歴史的、学術的価値等を有する個体の維持を図り、併せて森林施業・管理技術の発展、学術研究に資する。

- ① 原則として伐採は行わないものとするが、保護すべき植物群落の維持に必要な場合は、下刈、つる切、除伐等の保育を行う。
- ② 伐採及び搬出に当たっては、保護の対象とする植物を損傷しないよう特に留意する。
- ③ 保護の対象とする植物群落が衰退しつつある場合であって、更新補助作業又は保育を行うことが当該植物群落の保護に必要な効果的であると認められるときは、まき付け、植込み、刈出し、除伐等を行う。

(2) 緑の回廊

該当なし。

*【保護林】

保護林とは、国有林内の貴重な生態系及び自然環境の保護を目的に設定をするものです。

設定目的及び趣旨により「森林生態系保護地域」「森林生物遺伝資源保存林」「林木遺伝資源保存林」「植物群落保護林」「特定動物生息地保護林」「特定地理等保護林」「郷土の森」に区分します。

4 その他必要な事項

(1) 野生動物等による被害に関する事項

近年、ツキノワグマ等による剥皮被害や、ニホンジカやニホンカモシカ等による食害の被害が発生していることから、巡視等により被害の状況の把握に努め、立木の枯死が増大し公益的機能の低下のおそれのある箇所や伐採跡地の新植箇所を重点的に、防護柵の設置等による防除対策を行う。

また、被害分布や被害状況について民有林との情報共有を図り、対策の充実に努めるほか、効果的な有害鳥獣捕獲の手法の検討を行った上で、地方公共団体等との連携による地域一帯となった捕獲の推進を行うこととする。

(2) 希少猛禽類の生息に関する事項

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日法律第75号)において指定されている森林性猛禽類の生息には、餌動物の生息環境も含め、採餌・営巣環境が大きく影響する。

このため、クマタカ等希少猛禽類の生息地等の具体的な情報については、職員等による調査、既存の調査結果の収集、学識経験者や地元自然保護団体等からの提供を受ける取組等により把握に努めるとともに、学識経験者等との情報交換等を緊密に行っていく中で、猛禽類と林業との共生に取り組むこととする。

このような取組の中で、毎年度の事業計画の検討段階や事業の実施段階において、事業(予定)箇所及びその周辺について希少猛禽類の情報が得られ、繁殖の可能性が高いと判断される場合には、関東森林管理局に設置している「希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会」に諮るなどにより、適切に対応することとする。

(3) 溪畔[※]周辺の取扱いに関する事項

溪畔周辺については、野生動植物の生息・生育場所や移動経路の提供、種子などの供給源等として、生物多様性の保全上重要な役割を担っているため、本来成立すべき植生による上流から下流までの連続性を確保することにより、よりきめ細やかな森林生態系ネットワークの形成に努めることとする。

また、溪畔周辺の整備について、水質保全の向上や野生動植物の生息・生育環境の保全を図る観点から、防災面にも配慮しつつ、溪流沿い等に保護樹帯等を効果的に配置していくこととする。

(4) その他

希少種の保護や移入種の侵入防止の取組については、関係機関、地域住民、ボランティア、NPO等とも連携を図りながら行うこととする。

※【溪畔】

常時水流のある溪流や河川、湖沼、湿原等の水域と強い結びつきを持つ範囲にある森林で、流域全体の生物多様性や公益的機能の發揮上重要な役割を担っています。

Ⅲ 林産物の供給に関する事項

1 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

当計画区の国有林野は、44%が人工林となっており、のうち5～8 齢級（21～40 年生）の間伐適期林分が29%、9 齢級（41 年生）以上の高齢級林分が65%を占めている。

このため、主伐については、森林吸収源対策として、将来にわたる二酸化炭素吸収量を確保する観点から齢級構成の平準化のために行う主伐び分収林契約に基づく主伐が、間伐については、間伐適期林分や長伐期化（100～120 年生）に向けた高齢級林分の間伐が主体となることから、これらを計画的に進め、効率的に搬出し、供給に努めることとする。

なお、当計画区では、生産・流通・加工の各段階が小規模・分散・多段階となっており、木材需要者のニーズに応じて、品質・性能の確かな製品を低コストで安定的に供給する体制を確立することが課題となっていることから、国有林野事業においては、システム販売等による林産物の安定供給等を通じて、地域の川上・川中・川下の関係者との連携を強化し、地域材の安定的・効率的な供給体制の構築に寄与するよう一層努めることとする。

2 その他必要な事項

国有林野事業で実施する治山・林道工事において間伐材の利用を積極的に推進するとともに、地方公共団体等関係機関との間で間伐材等の木材需給についての情報交換を進めることを通じ、河川・砂防事業、その他の公共事業等多様な分野への間伐材の利用促進を図ることとする。特に、河川工事等の公共工事に伴う小径木の需要に対しては、資源の状況を考慮しながら積極的に対応することとする。

また、木質バイオマス等の供給については、地域の要望を踏まえて、人工林の間伐の際に同時に生産される低質材等の未利用部分の搬出について、計画的・安定的な供給体制の整備を図るとともに、国有林野の公益的機能の発揮に支障のない範囲内において、地域産業の振興に寄与することを目的とした土石、山菜等副産物の供給についても考慮し、地域産業の振興に寄与することとする。

IV 国有林野の活用に関する事項

1 国有林野の活用の推進方針

当計画区の国有林野は、群馬県南西部の長野県、埼玉県との県境に位置し利根川支流の神流川、鏑川、碓氷川、烏川等の大小河川の水源地となっており、近隣地域を含め首都圏の水がめとして重要な森林地帯となっている。また、群馬県を代表する上毛三山に数えられる榛名山や妙義山を始め多くの名山など優れた自然環境や景観、温泉、湖沼等が首都圏から 100km 圏内にあり、高速道路、新幹線などの交通の利便性も良く観光的立地に恵まれているほか、高崎市街地近郊に位置する観音山地区は、保健休養とレクリエーション利用を目的とした公共施設の整備が図られている。このため、国民が気軽に森林や自然とふれあう拠点として、地方公共団体等と連携しつつ自然環境に配慮した安全性の高い施設整備等に努めるとともに、各種情報手段の活用を通じて、花、植物、紅葉、きのこ等四季折々の見所等の情報提供に努めることとする。

なお、国有林野の活用に当たっては、国土の保全、自然環境の保全等公益的機能との調和を図ることとする。

(1) レクリエーションの森

レクリエーションの森は森林空間タイプのうち、自然景観、森林の保健・文化・教育的利用の現況及び将来の見通し、地域の要請等を勘案して、国民の保健・文化・教育的利用に供する施設又は森林の整備を特に積極的に行うことが適当と認められる国有林野を選定することとする。

当計画区の上毛三山のひとつである妙義山周辺では、変化に富んだ自然景観を呈しており、四季を通じて特色ある風景が見られ、登山、キャンプ、自然探勝等に利用されていることから、自然休養林や自然観察教育林等のレクリエーションの森を設定している。レクリエーションの森の管理経営については、I-2-(1)-ウの森林空間利用タイプによるほか、個別に作成する管理経営方針書によることとする。

また、施設の整備は、風致の保護、国土及び自然環境の保全等に配慮するとともに、レクリエーション利用の目的に合致した施設を整備することとし、法令により制限のある場合には所定の手続きを行うこととする。

種 類	箇所数	面 積 (ha)
自然休養林	1	1,009
自然観察教育林	1	91
風景林	6	698
野外スポーツ地域	1	77
風致探勝林	1	97
その他レクの森施設敷	6	2
総 数	16	1,974

2 国有林野の活用の具体的手法

主な活用の目的とその手法は以下のとおりである。

- (1) 建物、水路等一貸付、売払等
- (2) 国民参加の森林（法人の森林）、森林環境教育の森（学校林）等一分収造林契約等
- (3) ダム、公園、道路、電気事業施設等の公共用施設、地域産業の振興一貸付、売払等
- (4) レクリエーション利用一使用許可等
- (5) きのこと、山菜等の産物採取一共用林野*契約等
- (6) ボランティア活動、森林教育の場一協定等

3 その他必要な事項

国有林野の活用に当たっては、各種法令等を遵守しつつ、当該地域の市町村等が進める地域づくり構想や土地利用に関する計画等との必要な調整を図ることとする。

また、不要となった土地等の活用に向け、物件・土地売払情報公開窓口及びインターネットによる情報の提供と、販路拡大に努めることとする。

※【共用林野】

国との契約によって地元住民が共同して国有林野を利用すること。

利用の形態によって、普通共用林野、薪炭共用林野、放牧共用林野があります。

V 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項

1 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な方針

国有林野に隣接・介在する私有林野の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者等による施業が十分行われていないものが見られ、その位置関係により、当該私有林野における土砂の流出等の発生が国有林野の発揮している国土保全等の公益的機能に悪影響を及ぼす場合がある。

このため、次の要件を備えた箇所において公益的機能維持増進協定を活用し、国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した間伐等の施業等を私有林野と一体的に実施する取組を推進することとし、このことを通じて私有林野の有する公益的機能の維持増進にも寄与することとする。

- (1) 国有林野に隣接又は介在し、単独では効率的な森林経営をなし得ない私有林であること
- (2) 市町村森林整備計画に定められた公益的機能別施業森林の区域内であること
- (3) 森林の利用を不当に制限するものでないこと
- (4) 協定を締結しようとする区域内に存在する私有林又は当該区域に近接する私有林において、県が行い又は行おうとしている治山事業の実施に関する計画との整合性に配慮したものであること

VI 国民の参加による森林の整備に関する事項

1 国民参加の森林に関する事項

自主的な森林整備活動へのフィールドの提供や必要な技術支援、情報の提供などを通じ、国民の森林へのふれあいの場の提供に努めることとし、「ふれあいの森」、「社会貢献の森」「遊々の森」を設定している。

なお、本計画においては、協定締結による国民参加の森林づくりの対象予定区域は定めないが、新たに国有林野をフィールドとする活動の要望があった場合には、積極的に応えていくこととする。

(1) ふれあいの森

「ふれあいの森」は、自主的な森林整備活動等を目的とした植栽、保育、森林保護等及びこれらの活動と一体となって実施する森林・林業に関する理解の増進に資する活動を行うものである。

当計画区では、観音山地区において企業等が自主的な森林整備活動を実施していることから、引き続き各種情報の提供を行うなど、これらの活動を支援することとする。

名 称	面積(ha)	位置(林小班)
OKI グループ ふれあいの森	9.25	89 ろ、と、ち、 り
さぬ山創造の森	8.67	87 る ₁ 、る ₂
高崎里山の会 ふれあいの森	12.69	87 に ₁
FG21 の森	9.04	89 い、ろ

(2) 社会貢献の森

「社会貢献の森」は、水源涵養や森林の持続的経営の普及啓発等に資するもので、植栽、保育、森林保護等の森林整備及びこれらの活動と一体となって実施する森林・林業に関する理解の増進に資する活動を行うものである。

当計画区では、神流川地区において、NPO 法人が森林整備活動等を行っていることから、引き続き各種情報の提供を行うなど、これらの活動を支援することとする。

名 称	面積(ha)	位置(林小班)
立教・21sdc の森	2.11	76 は
どんぐりの森	1.93	145 い ₁

(3) 遊々の森

「遊々の森」は森林環境教育を目的とした森林教室、自然観察、体験林業等の体験活動を行うものである。当計画区では、観音山地区において、地域の学校が森林環境教育を推進していることから、各種情報の提供を行うなどこれらの活動を支援することとする。

名 称	面積 (ha)	位置 (林小班)
さぬ山たんけん ランド	57.87	87い ₁ ～る ₂

2 分収林に関する事項

分収林制度*を活用した森林整備への国民参加を推進することとし、特に、上下流の相互理解に基づく森林整備や企業等による社会貢献活動としての森林整備等の促進に努めることとする。

3 その他必要な事項

(1) 森林環境教育の推進

学校、地方公共団体、企業、ボランティア、NPO、地域の森林所有者や森林組合等の民有林関係者等多様な主体と連携しつつ、森林環境教育の推進を図ることとする。

また、森林管理署主催による児童・生徒等を対象とした体験林業や森林教室、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導など、森林環境教育に対する波及効果が期待される取組にも努めることとする。

さらに、森林環境教育のためのプログラムや教材の提供、指導者の派遣や紹介等を行うため、森林環境教育の実施に関する相談窓口の活性化に努めることとする。

(2) 森林の整備・保全等への国民参加

NPO 等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や必要な技術指導を行うなど、国民による国有林野の積極的な利用を推進することとする。

*【分収林制度】

国有林野事業における分収林は、国有林内に契約の相手方が造林・保育を行う「分収造林」と、国が造林・保育を行った生育途上の森林について、契約の相手方に費用の一部を負担してもらう「分収育林」があり、森林を造成し、伐採後に収益を一定の割合で分け合う制度です。

Ⅶ その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

1 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

(1) 林業技術の開発

平成 25 年度に定めた「関東森林管理局技術開発目標」に基づき、森林・林業の再生に資する造林・保育・生産技術の確立、公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全・利用技術の確立、効率的な森林管理及び健全な森林育成技術の確立を課題とし、森林技術・支援センターによる各種技術開発及び森林管理署に設定している各種試験地等における技術開発に取り組むこととする。

また、民有林関係者との技術交流の一環として、林業普及指導員等との連携を深めながら、林業技術の向上に取り組むこととする。

(2) 林業技術の指導・普及

国有林野事業の中で開発、改良された林業技術については、国有林野内での活用を図るとともに、各種試験地等の展示などを通じて地域の森林・林業関係者等への普及を図ることとする。

なお、自らが主伐・造林等の事業発注者であるという国有林野事業の特性を活かし、コンテナ苗を用いた、主伐と植栽を同時に行う一貫作業システムによる低コスト造林など、先駆的な技術や手法についての事業レベルでの検証を行い、現地検討会等の開催により、地域の森林・林業関係者等への普及を図ることとする。

さらに、森林管理署において、木と緑に関する国民からの問い合わせに応じることとする。

2 地域の振興に関する事項

地域の振興に寄与することは、国有林野事業の重要な使命の一つであることから、国有林野内の未利用資源（森林景観を含む）の発掘及び情報提供、地方公共団体等からの相談受付体制の充実、地方公共団体等が推進する地域づくりへの積極的な参加等に努めつつ、森林及び森林景観の整備や林産物の供給、国有林野の活用、森林空間の総合利用、人材育成をはじめとした民有林への指導やサポート等国有林野の諸活動を通じて、地域産業の振興、住民の福祉の向上等に寄与するよう努めることとする。

3 その他必要な事項

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の除染については、「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」や「除染関係ガイドライン(平成 23 年 12 月環境省策定)」等に基づき、地方公共団体等が策定する除染実施計画等により、適切に対応するとともに、実証事業の実施等において得られる森林除染に関する知見の集積や技術開発にも努めることとする。

また、地方公共団体等が独自に除染を実施する場合や地方公共団体等から除染に伴い発生する除去土壌等の仮置場等の設置要望があった場合は、当該地方公共団体等と十分調整を図り、適切に対応することとする。

なお、除染作業において、落葉堆積有機物の除去による土壌流出のおそれがある場合については、土嚢袋を設置するなど必要な対策を行うこととし、除染関係ガイドラインにおいて、森林の除染に関する新たな考え方が追加された場合は、その内容に基づき適切に対応することとする。